2016 年度

高校生国際協力実体験プログラム

報告書

2016年 (平成 28年)

1回目 7月27日~7月29日

2回目 8月 3日~8月 5日



独立行政法人 国際協力機構 九州国際センター (JICA 九州)

<目 次>

1.	は じ め に	1
2.	高校生国際協力実体験プログラム報告	
	プログラム	
	開 会 式	3
	アイスブレイキング	4
	ク バ ー ラ	6
	フォトランゲージ「地球の食卓」・国際交流パーティ	8
	アイスブレイキング「ナマステ体操」	10
	国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」…	11
	青年海外協力隊体験談	13
	青年海外協力隊活動計画作り	15
	青年海外協力隊活動計画発表	18
	ふりかえり・閉会式	20
	参加校一覧・スタッフ一覧	21
3.	添付資料	
	・高校生国際協力実体験プログラム募集要項	23
	・アンケート集計結果(参加生徒・教員)	32

1. はじめに

【事業の結果概要】

1996年より JICA 九州は、九州の高校生の開発途上国への理解を深めることを目的とした「高校生国際協力実体験プログラム」を実施しており、今回で 21 回目を迎えた。

本年度は九州 7 県から 36 校(内 7 校は 2 グループ以上での応募)からの応募があったため、応募書類に関しての選考を行い、19 校を合格とした。結果、計 90 名(生徒 71 名、教員 19 名)が本プログラムに参加した。

参加生徒の内訳としては、1回目・2回目とも2年生が約7割、女子生徒が約7割を占めるが、 これは応募の時点からの傾向である。

事前学習として、各県国際協力推進員が参加校を訪れ、JICA事業の紹介を行った。また参加する生徒達には、プログラム参加前の「国際協力」に関するイメージをウェビング*1により記述してもらい、プログラム後との比較を行った。

プログラムの1回目は7月27日から7月29日、2回目は8月3日から8月5日にかけての2泊3日でJICA 九州にて行なわれた。アイスブレイキングで緊張をほぐした後、クバーラ *2 、JICA 研修員受入事業により各国から JICA 九州に来ている研修員との交流、国際理解ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」、元青年海外協力隊員による体験談、青年海外協力隊活動計画作り・発表等を行なった。

生徒・教員に対するアンケートの結果からは、ほぼ全員がプログラムに対して満足していることが伺えた。

生徒達の意見としては、「『援助』とは、『ボランティア』とは何なのか?を考えさせられました。」「今まで身近に感じることのなかった国際協力への意識が変わり、自分も何か貢献したいと思いました。」「見た目やニュースなどで知った事を全てと思わずに、事実をしっかり知ること、自分とは関係ないという考えをなくすことが大事だと思いました。」など、3日間の短い期間のなかで、国際協力の現場と実際を知り、国際協力や開発途上国に対する見方が変化したという意見が聞かれた。

プログラム全体を通しての参加者の評価は以下の通りである。

【アンケート結果】

・3日間を通してプログラムの内容の満足度は何%でしたか(90名中)

満足 (%		100 以上	90 ~ 99	80 ~ 89	80 未満	無回答
人类	文	57 人	16 人	11 人	4 人	2 人

半数以上の参加者が100%以上の満足度を示しており、今回のプログラム内容が充実したものであり、参加者の期待に応えられていたことが伺える。

また、満足度が100%ではない理由として、「もっと良いプレゼンテーションをしたかった」 「あともう少し期間が長ければ」など、積極的であるがゆえの意見も多く挙げられている。 参加教員からの要望や改善点としては、このプログラムの回数を増やしたり、教員や中学 生に対象を広げたりして欲しいという意見が挙げられた。

以下、各プログラムの概要と参加者からの意見を記している。多くのプログラムにおいて「深く考えさせられた」「知らなかったことばかりで衝撃的だった」といった感想が挙がっている。今後も今回の反省を踏まえながらより良いプログラムを実施していきたい。

※1「ウェビング」

一つの題材・単語(本プログラムの場合は「国際協力」)を中心として、その題材から連想できるものを書き出していき、周りに網の目のように線でつなげていく方法。グループ内での各個人の意見を共有し、課題抽出や課題解決などの計画策定に用いられる手法。



(ウェビングの様子)

※2 「クバーラ」

アフリカのマダガスカルに伝統的にある遊びで、日本の鬼ごっこのようなゲーム。青年海外協力隊でマダガスカルに赴任していた元青年海外協力隊員が日本に持ち帰り、普及活動を進めている。道具が必要なく、ルールもシンプルではあるが、仲間とのコミュニケーションがとても重要になる。グループ内でのアイスブレイクとして、2011年度よりプログラムに取り入れている。



(クバーラ試合中の様子)

2. 高校生国際協力実体験プログラム報告

【プログラム名】

開 会 式 担当:三浦 菜津子(福岡県(北九州市)国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ プログラムの開会をもって参加への意識を高める。
- ・ プログラムの目的および意義を確認することでより質の高いプログラムを目指す。
- ・ プログラム運営スタッフを紹介し、青年海外協力隊経験者の存在を認識する。

(2) 概 要

「高校生国際協力実体験プログラム 2016」を開催するにあたり、1回目は JICA 九州国際センター次長の植村、2回目は所長の井﨑が開会の挨拶を行った。

JICA が実施している国際協力事業について説明を行った後、本プログラムの意義と参加者へ期待する事について述べた。開会挨拶後、本プログラムの流れについて、配布資料 (スケジュール) をもとに確認した。その後、3日間を共に過ごすスタッフ(九州各県の国際協力推進員、(特活)九州海外協力協会職員)の自己紹介を行った。

最後に、(特活) 九州海外協力協会職員より、3日間を九州国際センターで過ごすにあ たっての注意事項、諸連絡を行った。



(開会式の様子)



(スタッフ自己紹介)

アイスブレイキング

担当:糀 広大(福岡県国際協力推進員)、佐保 好信(大分県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ 参加者の緊張をほぐし、プログラムへの導入とする。
- · 学校単位のグループを解体し、プログラムに向けて再編成をする。

(2) 概 要

声を出す、動く、仲間を見つけるなどといった活動を通じて、参加者の緊張を緩和し、 その後の活動をスムーズに、協働的に行われるための土台作りを行う。

〈内 容〉

- ① 学校紹介:事前課題として作成してきた学校新聞を用いて1分間の学校紹介をする。
- ② 共通イメージ:「何月生まれ?」「九州と言えば?」「行ってみたい国は?」といった 人によって答えの違う発問をファシリテーターが行い、参加者はその答えを大きな 声で叫びながら同じ答えの人を集めグループが出来たらその場に座る。その後、グ ループ間を回りながら簡単なインタビューを実施する。
- ③ グループ分け:名札に事前にカラーラインを引いておき、その色でグループ分けを 行う。
- ④ 自己紹介: A4 用紙を四つに折り、「呼ばれたい名前」「学校名」「好きな食べ物」「楽しみなプログラム/どうしてこのプログラムに参加したか」を記入し、それを活用しながらグループ内で自己紹介を行う。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

・ アイスブレイキングにはとても満足しているが、学校紹介では原稿を準備していなく て他校に圧倒されたのが少し納得がいかなかった。もっとうまくしたかった。



(学校新聞を用いて学校紹介)



(声を出して仲間を見つける)

・ 大声を出したりするのは恥ずかしいと思って苦手だったけど、他の人が積極的なので、 私もつられて声を出せた。声を出して少し緊張がほぐれた。

【教員】

- ・ 1分間での学校紹介は少々無理して早く話す生徒が多かった。時間内に焦点部分を最大限に伝えることは大切だが、 $2\sim3$ 分あった方が余裕を持って学校紹介ができると思う。
- ・ 緊張していた生徒も多い中、声を出す活動を通して少しリラックスできていた様子で 良かった。

クバーラ

担当:糀 広大(福岡県国際協力推進員)、佐保 好信(大分県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ 青年海外協力隊によるクバーラの普及啓発活動、マダガスカルについて知る。
- · クバーラを通し、チームワーク、コミュニケーションの大切さを学ぶ。
- ・ 他校の生徒と協力し、団結力を強めることで、グループ活動を行いやすい環境を作る。

(2) 概 要

マダガスカルの遊び「クバーラ」。スポーツとしてルールを整え普及した青年海外協力 隊の活動を映像で紹介後、クバーラを説明・実施。クバーラでは、作戦やグループ内の協力がゲームを左右するので、チームワークが必要となる。

〈内 容〉

- ① 挨拶、クバーラの紹介
- ② 青年海外協力隊によるクバーラ普及啓発活動紹介(DVD を視聴)
- ③ クバーラのルール説明
- ④ 準備体操(ギニア語のラジオ体操)
- ⑤ クバーラ体験(作戦タイム含む)
- ⑥ 振り返り、マダガスカルの説明

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ 体を動かすだけでなく、頭も使って、皆と協力してと大変だった。結果は3位と悔し かったけれど、精一杯できてよかった。
- ・ 初めて話す友達とも作戦会議で話せてよかったし、マダガスカルについて環境や動物 の面を通してもっと知りたいと思いました。後でもっと調べて知りたいです。



(作戦を練っている様子)



(試合の様子)

【教員】

- ・ 生徒たちは出会ったばかりのメンバーとしっかり連携していて、スポーツが生み出す コミュニケーションのすばらしさを感じた。
- ・「マダガスカル」をキーワードにスポーツ以外についても考える機会を設けていただいたことはとてもよかった。生徒たちが日常で見聞きするキーワードから自ら発想展開していけるよう、学校でも指導したい。

フォトランゲージ「地球の食卓」・国際交流パーティ

担当:北園 さつ紀 (宮崎県国際協力推進員)、阿南 栄子 (熊本県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ JICA 研修員との交流を通して異文化への理解を深める。
- ・ 十分に言葉が通じない相手とのコミュニケーションを体験し、コミュニケーション能力を高める。
- ・ 相手を理解しようとすることの大切さや意義に気付き、それが日常生活へも通じることに気付く。
- ・ 世界各国の料理を味わうことで食文化の違いを理解し、また日本食を紹介することにより自国の食文化を振り返る。

(2) 概 要

JICA 研修員との交流の前にフォトランゲージ「地球の食卓」を通して世界の食の多様性に触れ、その後 IICA 研修員1~2名が高校生の各グループに入り交流を行った。

【1回目】廃棄物管理技術(応用、技術編Aコース)8名

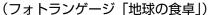
(アルバニア、インドネシア、エジプト、スリランカ、ツバル、トルコ、ナイジェリア、 パプアニューギニア)

【2回目】省エネルギー政策立案Bコース7名

(エジプト3名、イラク、ヨルダン、タジキスタン、ウクライナ、ザンビア)

- ・ フォトランゲージ「地球の食卓」
 - 各グループに1枚の写真を配布し、気付いた事などを書き出し、写真の家族がどこの 国に住んでいるのかを考え全体に発表した。
- ・ 研修事業、JICA 研修員について確認
- · 全体での JICA 研修員紹介
- ・ グループに分かれて各自の自己紹介
- ・「JICA 研修員の国について知ろう! 日本を紹介しよう!」 JICA 研修員が持参した各国の写真をもとに会話をしたり、日本についても紹介したりするよう促した。
- ・「JICA 研修員の国の食事情調査!」テーマ:よく食べている料理 該当する料理について材料や作り方、食べ方や食べるタイミング等について JICA 研 修員にインタビューする。聞きとった内容をまとめ、全体に発表した。







(グループ毎に JICA 研修員と一緒に食事)

(3) 参加者からの声

【生徒】

- ・ フォトランゲージは写真を見るだけで判断するのはとても難しく、固定概念を持って いるために思い違いをしていたので、実際に見て触れてみたいと思いました。
- ・ 国際交流パーティでは JICA 研修員の方と話せてとても楽しかったですが、うまく英語を聞き取れなかったり、伝えたいことが言葉にできなかったりしてもどかしかったです。もっとたくさん話したいと思いました。
- ・ JICA 研修員の方とたくさんの話ができたし、日本の価値観では考えられないことを 聞けてよかった。

【教 員】

- ・ フォトランゲージでは人間なら誰もが行う食事をキーワードに世界を見ていくのはと ても楽しかったです。世界に目を向ける、世界を知ることは大事だと感じました。
- ・ 国際交流パーティに参加されなかった JICA 研修員の方もいましたが、今後多様な文 化圏の国々の人々と過ごすことが増えるであろう生徒たちにとっては、却って貴重な 経験になったのではないかと思います。

アイスブレイキング「ナマステ体操」

担当:糀 広大(福岡県国際協力推進員)、佐保 好信(大分県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ 2日目のアイスブレイク、朝の体操として行う。
- ・メインプログラムに入る前に、体操をすることで脳を活性化する。
- ・ ネパール語、音楽、動きから異文化を感じる。

(2) 概 要

ネパールで国民に人気のある「ナマステ体操」は、多くの学校の朝礼や職場で導入されており、ヨガやネパールのダンス、武道の動きなども取り入れられている。

体操の隊形に開いて、DVD に合わせて体操を実施した。

体操の後半は激しく、予想のつかない動きに変わっていく。日本の体操にはない動きを 楽しみながら、和やかな雰囲気で終了した。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ 他国の文化に、運動という形で触れられてよかった。
- ・ 体が伸びる感じとかなり難しいステップや足の動きがあったけど、朝からしっかり体 を起こすことができた。

【教員】

- ・ ナマステ体操気に入りました! 色々な国のラジオ体操を探してみようと思います。
- ・ 楽しめました。みんなで体を動かすのはいいことだと思いました。一体感のようなも のが出ていたように思います。
- ・ 日本人にとってラジオ体操は当たり前のことの1つですが、世界を見ると珍しいこと だということが意外でした。



(ポーズをする様子)



(ポーズをする様子)

国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」

担当:糀 広大(福岡県国際協力推進員)、佐保 好信(大分県国際協力推進員)

(1) ねらい

世界人口を参加者の人数に置き換えて考えることで世界の諸問題について分かりやすく、身近にとらえることができるようになる。

(2) 概 要

開発教育協会が発行している「ワークショップ版世界がもし 100 人の村だったら第 5 版」 をベースに実施した。参加者には役割カードを配布し、その役割カードに書いてある内容 に応じてファシリテーターの指示に従って動いていく。

<内 容>

- ① 現在、過去、将来の世界の人口で分かれる。
- ② 世界の男女比で分かれる。
- ③ 世界の/日本の年齢(子ども、大人、年寄り)で分かれる。
- ④ 大陸ごとに分かれる。
- ⑤ それぞれのあいさつで分かれる。
- ⑥ 文字が読める/読めないグループに分かれて、文字が読めないことを考える。
- (7) 富(所得)の分配について、お茶を使って示す。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ 日本の人口、世界の地域における富の格差の問題は自分が思っていた以上に深刻であることが分かりました。そして私が限られたもっとも裕福な国で恵まれて育っていることをひしひしと感じました。
- ・ 世界の富をお茶で表したのがとても分かりやすく、自分が思った以上に貧富の差が あって驚いた。



(大陸ごとに分かれる)



(所得を表す飲み物を分配)

【教 員】

- ・ 自分が思っていたイメージがいかに思い込みであったかを知ることができました。これはアレンジして授業に是非取り入れたいと思いました。
- ・ 実際にグループに分かれたり、お茶を富と見立てたりすることで目に見える形でイメージができた。富める人が世界全体のことを客観的に捉えるようになり、問題を解決するように動き出さなければならないと思いました。

青年海外協力隊体験談

担当:阿南 栄子(熊本県国際協力推進員)、北園 さつ紀(宮崎県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ ODA の一環として JICA の事業に「青年海外協力隊」という制度があること、また その名前を正式に知ってもらい、海外ボランティア活動の理解を深める。
- ・ 講師の派遣国紹介を通じて、世界にどんな問題があるか、それらの国と日本がどのようにつながりがあるのかを知ってもらい、視野を広げ、世界の課題を認識してもらう。
- ・ 国際協力などに興味のある高校生の将来の進路選択に役立てる。
- ・ ワークショップ「1 枚の看板」から「本当の支援とは何か?」というテーマで高校生 自身の考えを展開してもらう。
- ・ 体験談の活動報告を受けて次のプログラムの活動計画作りに活かしてもらう。

(2) 概 要

青年海外協力隊の概要を5分ほど説明し、その後体験談発表を実施。体験談の概要を空欄にしたワークシート(講師の話の概要)を事前に配布。体験談発表は1人とし、参加動機、高校生の時に何をしていたか、現地での活動紹介、活動から得たことを中心に話してもらった。

· 体験談発表者

【1回目】茂田敬介(派遣国:ザンビア)(長崎県国際協力推進員)

【2回目】阿南栄子(派遣国:ニジェール)(熊本県国際協力推進員)

体験談を踏まえて質疑応答の時間を設けた後、「本当に必要な援助は何か?」について「『援助』する前に考えよう」から「1枚の看板」を実施。

1回目は「えんたくん」(ひざに乗せて書く円状の段ボール板)を使用して、①「1枚の看板」を読んで、募金するか?②アイコ *3 の活動のいいところ、疑問点③アイコの活動がよりよいものになるためには?について意見を書いてもらい、グループで発表してもらった。



(1回目:「えんたくん」を用いたグループワーク)



(2回目:体験談の様子)

1回目はザンビアでの体験談から、タイが舞台の「『援助』する前に考えよう」のワークへの導入がうまくできなかった。この反省をいかし、2回目はニジェールでの体験談とつなげて「本当の援助とは?」を考えてもらう時間とした。

2回目は「『援助』する前に考えよう」の主旨を踏まえて、ニジェールでの蚊帳販売 支援について、①蚊帳を買うために募金するか?②ニジェールと蚊帳をとりまく状況 情報リストを読んで、自分だったらどんな支援をするか、についてアイディアを出し、 グループ内で共有。最後に、共有した意見を各グループから全体に話してもらった。

※3「アイコ」

ワークショップ「1枚の看板」の登場人物

(3) 参加者からの声

【生徒】

- ・ 現地に行ってみて初めて分かる課題や、村の人々との助け合いに感動しました。
- ・ 生の声を聞くことができ、青年海外協力隊への興味がさらに深くなった。自分に何が できるのか見つめ直す良いきっかけになった。
- ・ 今まで自分が知らなかったこと、そうだと信じて疑っていなかったことが時と場合に よっては間違いであるということを実感した。

【教 員】

- ・ 文献などでは分からないこと、体験した人にしか分からない生の言葉には重みがあります。色々な悩み、挫折、葛藤を乗り越えた上での言葉を聞けてよかったです。
- ・ 感動的な話だけでなく、現地が抱える課題と向き合うことの難しさについて改めて考えさせられました。本当の国際協力についてもう一度じっくり考えてみます。
- ・ 正直もっともっと詳しく聞きたかったです。実際に行かれた方の話を伺う機会はなか なかないので、各グループに1人の青年海外協力隊経験者で根据り葉掘り質問したい と思いました。

青年海外協力隊活動計画作り

担当:福永 みゆき (鹿児島県国際協力推進員)、山田 泰子 (佐賀県国際協力推進員)

(1) ねらい

青年海外協力隊のコミュニティ開発隊員になりきり、村(派遣される地域)をより良く するための活動計画作りを行うことで、

- ① 現地の人々にとって本当に必要な支援とは何かを考える。
- ② 青年海外協力隊として村の住民を巻き込んだ計画を立て、互いの価値観を尊重する 大切さに気付く。

(2) 概 要

<設 定>

架空のウェストティモール国バリボ村の村役場へコミュニティ開発隊員として派遣された設定で、2年間の活動計画を作成した。活動内容の要請は「現地の伝統や文化を尊重しながら、共により良い村づくりに協力すること」であるが、まずは、派遣された村の現状や関係者を調査し、地域の良い点・課題点を見出した。それらをもとに活動計画を作成する上での考慮事項として、「実現可能性」「妥当性」「持続性」「独自性」をあげ、4つの観点が翌日に行われる計画発表の評価となることを伝えた。

<形態>

グループ活動 $(4 \sim 5 \, \text{A} \times 8 \, \text{グループ})$

〈内 容〉

■ 導 入

- ・ プログラムの全体説明
- ・ コミュニティ開発隊員の説明・活動の事例紹介

■ 村の状況把握・関係者分析

- ・ 地図上で村の位置を確認
- ・ 写真から読み取れる村の様子をもとに、気付いたことを書き出す
- ・ 住民についての分析(どのような場所に住んで、何をしているか等)
- ・ 村の概要シート・寸劇で表現した日常生活から情報を収集
- ・ 出た意見をグループ内と全体で共有

● 寸劇の内容について

演者:各県国際協力推進員・引率教員数名

設定:村の日常生活を4場面で表し、各場面には村の現状や特徴が入っている。

場面①:子どもの水汲み (児童労働/環境・衛生問題)

場面②:診療所での出来事 (衛生・医療問題/識字率/栄養状況)

場面③:学校・市場での出来事 (児童労働/環境・ゴミ問題)

場面④: 役場にて (環境・ゴミ問題 / 青年海外協力隊員赴任)







(活動計画作成~企画調査員への相談~)

■ 村の良い点・課題点の発掘

・ 得た情報から良い点・課題点を洗い出し、ポストイットへ記入

■ 課題点の解決に向けた取り組みの優先順位づけ

- ダイヤモンドランキングを用いて、グループ内で解決事項を順位化
- ・ 課題点の解決案を作成
- ・ 良い点を更に向上させるためのアイディアの書き出し
- ・ 意見をポストイットへ記入し、グループ内で共有

■ 実際の活動計画作成

<設定>の考慮事項を念頭に置き、「活動計画名」「対象者」「協力者」「村の現状」「活 動内容」「目指す村の将来のイメージ」を取り入れた計画作り。

■ JICA 事務所(企画調査員)の配置

青年海外協力隊等ボランティアの良き相談相手となり、個々のボランティア業務を 支援する企画調査員役を配置した。実際に経験のある JICA 九州の職員に協力を得て、 計画作成中の質疑に対応してもらった。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ 現地のニーズ把握や文化を知り、現地の人々と理解し合える環境作りをする必要など、 実際の計画を作る難しさが分かった。
- 本当に必要な支援とは何なのか考える機会となった。
- ・ 正直難しかった。「実現出来ること」というのが一番重要なことではないかと思った。
- ・ 大きな工事ややりたいことをするよりも、まずはアイディアを出して行く事が大切で はないかと思った。

【教 員】

- ・ 生徒への問題提示では、スライドでの説明に加え、寸劇を交えた説明でイメージがよ くつかめたと思う。
- 出来ることと出来ないこと、求められていることと求められていないこことなど「現 地の人々のために」という視点が大切であることを理解出来た。

- ・ 一番楽しみにしていた活動で、先生達でたくさん意見を出し合いながら、プロジェクトを作り上げるのが楽しかった。
- ・ 付箋の使い方、整理の仕方、プレゼン方法と評価の仕方、開発プロジェクトに関する 全ての資料が今後授業に生かしたい情報で参考になった。

青年海外協力隊活動計画発表

担当:山田 泰子(佐賀県国際協力推進員)、福永 みゆき (鹿児島県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ 前日のプログラム「青年海外協力隊活動計画作り」で各グループにて作成した青年海 外協力隊としての「活動計画」を発表する。
- ・ 大勢の人の前で発表する経験を通じて、自分の考えを伝えること、人の話を聞くこと の大切さに気付く。
- ・ 他のグループの発表で異なる意見を聞くことや質疑応答により、新たな視点を知り、 国際協力に対する理 解を深める。

(2) 概 要

まず、発表に関する注意事項について、①1グループ5分以内、②グループ全員が話す、 ③計画を設定した背景や村の課題についても発表に含める、④発表は村人に向けて行い、 質問は青年海外協力隊としての立場で質問するという4点を再確認した。また、評価シートを配布し、評価項目(実現可能性、妥当性、持続性、独自性)について5段階評価する ことを説明し、その後、各グループでの発表練習の時間を10分間設けた後に計画発表を 行った。

発表者は、村人に青年海外協力隊の活動に協力してもらえるような雰囲気作りをしたり、 識字率を考慮したりして絵や寸劇を利用して発表するなど工夫を凝らしており、水・衛生 や教育など同じ課題への取り組みでも活動内容は様々であった。

発表後は評価シートをもとに生徒・教員・JICA 関係者が投票を行い、生徒・教員の投票数が一番多いグループを最優秀賞、JICA 職員の投票数が一番多いグループを JICA 賞とし、表彰した。

その後、1回目は JICA 九州市民参加協力課課長の瀧沢、2回目は中野専任参事が、各グループの良い点や改善点などについて、実際の国際協力の現場での事例などを紹介しながら解説した。



(発表の様子)



(質疑応答の様子)

最後に、このプログラムが学校混合で構成した活動グループでの最後の時間となるため、 これまでの学びや感想を仲間に伝え合う時間を設け、各グループメンバーで自分の感じた ことを伝え合った後に終了した。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ 前の日から頑張って、みんなで発表し合って、お互いの意見を言い合ったり、感想を 言い合ったりしてとてもよい経験でした。
- ・ 色々なグループの発表も見ることができて、とても刺激的だった。お互いのグループ の発表を聞くことによって違う考え方や見方ができた。お互いに意見を交換して、質 疑応答していて、とても真剣だなと思った。
- ・ 色々なグループの発表を聞いて、同じことに対してのテーマでも内容が全然違ったこととか、ウェストティモール国の現状のことも考慮しながら質問が出ていたこともおもしろかった。

【教 員】

· 発表では、自分たちの思いを伝えることの難しさを体験できたことも良かった。

ふりかえり・閉会式 担当:茂田 敬介(長崎県国際協力推進員)、

三浦 菜津子(福岡県(北九州市)国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ 3日間のプログラムの気付きを整理する。
- · 今後の学校としての取り組みへの橋渡しをする。

(2) 概 要

■ ふりかえり

学校毎のグループとなり、3日間の気づきや学びについて振り返った。まず事前学習 で行ったウェビングに追加して書いてもらい、その後、プログラムの感想や学びを共 有した。

次に、3日間の学びを学内で活かす取り組みについて話し合い、最後は各学校の取り 組みを全体へ向けて発表した。

■閉 会 式

プログラムの終了にあたり、1回目は JICA 九州国際センター次長の植村、2回目は 市民参加協力課課長の瀧沢が閉会の挨拶を行った。プログラムを振り返り、3日間で学 んだことを今後に活かしてほしいと生徒に伝え、閉会の言葉とした。

その後、参加者全体での記念写真撮影を行い、アンケート回収後、解散とした。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ このプログラムで学んだことを他の人達にもしっかり伝えようと思う。
- · 学んだことがたくさんあるので、今後に活かしていきたいと思った。
- ・ 今日学んだことを自分達だけでなく、もっと多くの人に知ってもらいたい。
- ・ 世界の現状とかイメージと違っていた事とかたくさんあったから、周りの人に知らせ なければいけないと思った。



(今後の取り組み発表)



(記念撮影)

高校生国際協力実体験プログラム 参加校一覧

<第1回目:7月27日(水)~7月29日(金) 計42名>

	県	<u> </u>	高等学校名	生徒	1年	2年	3年	男	女	教員
1	福岡	私立	福岡海星女子学院	4		4			4	1
2	福岡	私立	福岡雙葉	3		3			3	1
3	北九州	県立	京都	3		3		3		1
4	佐賀	県立	佐賀農業	4		4			4	1
5	長崎	県立	佐世保商業	4			4		4	1
6	大分	県立	別府鶴見丘	4		4		1	3	1
7	宮崎	県立	高千穂	3			3	1	2	1
8	鹿児島	県立	明桜館	4		4		3	1	1
9	鹿児島	私立	鹿児島純心女子	4		4			4	1
		小	計(人)	33	0	26	7	8	25	9

<第2回目:8月3日(水)~8月5日(金) 計48名>

	県	<u> </u>	高等学校名	生徒	1年	2年	3年	男	女	教員
1	福岡	私立	福岡工業大学附属城東	4		4			4	1
2	福岡	私立	中村学園女子	4	4				4	1
3	佐賀	県立	武雄	4		4			4	1
4	長崎	県立	大村	4		4			4	1
5	熊本	県立	南稜	4		2	2	2	2	1
6	熊本	県立	東稜	4		4		1	3	1
7	大分	県立	大分豊府	3		2	1	1	2	1
8	宮崎	県立	飯野	4			4	2	2	1
9	鹿児島	県立	武岡台	4		4			4	1
10	鹿児島	私立	鳳凰	3		3			3	1
		小	計(人)	38	4	27	7	6	32	10

プログラム実施スタッフ一覧

	所属		名	前	任国	職種
1	福岡県国際協力推進員	糀		広 大	大洋州・ミクロネシア	小学校教育
2	福岡県(北九州市)国際協力推進員	11.	浦	菜津子	西アフリカ・ガーナ	PCインストラクター
3	佐賀県国際協力推進員	Ш	田	泰子	大洋州・バヌアツ	看 護 師
4	長崎県国際協力推進員	茂	田	敬介	東アフリカ・ザンビア	コミュニティ開発
5	熊本県国際協力推進員	阿	南	栄 子	西アフリカ・ニジェール	感染症対策
6	大分県国際協力推進員	佐	保	好 信	東南アジア・フィリピン	服飾
7	宮崎県国際協力推進員	北	園	さつ紀	東アフリカ・タンザニア	エイズ対策
8	鹿児島県国際協力推進員	福	永	みゆき	南 米・ブ ラ ジ ル	日系日本語学 校 教 師
9	(特活) 九州海外協力協会	古	泉	志 保	東アフリカ・エチオピア	コミュニティ開発

3. 添付資料

高校生国際協力実体験プログラム募集要項





世界·仲間·自分、発見

九州各地の高校生たちと世界を感じる3日間!

「JICA九州 高校生国際協力実体験プログラム」は九州各県から集まった仲間が2泊3日を共にし、世界と自分とのつながりを体感する、高校生のための国際協力入門講座です。

事前に知っておこう!

JICA(ジャイカ)とは?

JICA(国際協力機構)は、日本政府の開発途上国へのODA(政府開発 援助)を行う組織です。

青年海外協力隊って?

JICAが実施する海外ボランティア派遣制度です。開発途上国で現地の人たちと生活を共にし、貧困や環境など、その国の抱える課題に取り組みます。

JICA 九州とは?

JICAの九州における国際協力の 拠点です。開発途上国から日本の 技術を学びに来た人たちのため の研修施設もあります。

START

事前学習

各校にて実施します

「国際協力」ってなんだろう?

「実体験プログラム」への参加 前に、各地の国際協力推進員 と一緒に国際協力について考 えてみよう。



多様な文化に触れる

九州各地から集まった仲間たちとアフリカのスポーツで親睦を深め、日本に研修に来ている開発途上国の人たちとの交流や世界の料理を楽しもう!

TIME TABLE

13:00~ 開場

13:30~ 開会式

13:50~ アイスブレイク、自己紹介

14:30~ アフリカのスポーツ

17:00~ 交流パーティー

20:00 終了



伝わるかなお、ドキドキ



SUPPORT STAFF

JICAボランディア経験者である各デスクの国際協力推進員たちが、 プログラム全体をサポートします。

JICAデスク 北九州

(公財)北九州国際交流協会内 TEL093-643-5931 jicadpd-desk-kitakyushushi@jica.go.jp

JICAデスク 福岡

(公財)福岡よかトビア国際交流財団内 TEL092-733-5638 jicadpd-desk-fukuokashi@jica.go.jp

JICAデスク 佐賀

(公財)佐賀県国際交流協会内 TEL0952-25-7921 jicadpd-desk-sagaken@jica.go.jp

JICAデスク 長崎

(公財)長崎県国際交流協会内 TEL095-823-3931 jicadpd-desk-nagasakiken@jica.go.jp

JICAデスク 大分

(公財)おおいた国際交流プラザ内 TEL097-533-4021 jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp

JICAデスク 熊本

(一財)熊本市国際交流会館内 TEL096-359-2130 jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp

JICAデスク 宮崎

(公財)宮崎県国際交流協会内 TEL0985-32-8457 jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

JICAデスク 鹿児島

(公財)鹿児島県国際交流協会内 TEL099-221-6624 jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp







青年海外協力隊になる

青年海外協力隊になりきって、自分に何が できるか考えてみよう。現地の人たちに本 当に必要とされる支援って何だろう?

TIME TABLE

9:00~ 朝のつどい

9:20~ ワークショップ

11:00~ 青年海外協力隊体験談

12:30~ 昼食

13:30~ 青年海外協力隊計画作り

17:00 終了

体験を振り返る

仲間と作りあげた青年海外協力隊活 動計画を発表し、3日間を通した自分 の変化や成長を振り返り、これからに 活かそう!

TIME TABLE

9:00~ グループによる成果発表

11:50~ 振り返り

12:40~ 閉会式 13:00 解散

※プログラムの内容や時間は 変更する場合があります。

GOAL

事後学習

各校にて実施します

自分の変化を 伝えよう!

「実体験プログラム」で感じ たこと、考えたことを表現 し、周りの人に伝えよう。













JICA 九州 高校生国際協力 本験プログラム

グローバルな人材を育てる参加型の「学び

[国際理解]世界の状況や国際協力の現状に気づき理解を深める。

流]他校からの参加者や青年海外協力隊経験者、外国人 [交 との交流を通し、様々な価値観に触れる。

[進路・生き方] 自分を見つめ直し、世界の中でどう生きるのか考える ことで、将来の進路選択に役立てる。

日 程

第1回 7月27日(水)~29日(金) 第2回 8月3日(水)~5日(金)

プログラムの流れ

事前学習 | 7月に国際協力推進員が各校を訪問し事前学習 を実施します。日程など詳細については、各地 の国際協力推進員にご相談ください。

本プログラム

第1回、第2回のいずれかの日程に ご参加ください。

事後学習

例年の参加校はプログラム終了後, 学校行事や 各地の国際交流・国際協力イベントなどで、本ブ ログラムの成果を発表しています。また、参加し た経験を活かした「JICA国際協力中学生・高校 生エッセイコンテスト」への応募も推奨していま す。詳細は各地の国際協力推進員にご相談くだ \$1.1

会 場

独立行政法人 国際協力機構 九州国際センター(JICA九州)

福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1 (JR鹿児島本線八幡駅下車徒歩12分) TEL093-671-6311(代表) www.jica.go.jp/kyushu





参加条件

- 国際理解教育・持続可能な開発のための教育(ESD)・キャリア教育 に積極的に取り組んでいる学校、又は今後取り組む意欲がある学校。
- 学校長より参加の許可が得られること。
- 生徒の保護者から参加への同意が得られること。
- 生徒が過去に本プログラムに参加していないこと。
- 教員·生徒とも、事前·事後学習を含み、全プログラムに参加可能 tity.

募集数

- 九州7県から16~20校
- ※1校につき、生徒3~4名(+教員1名)での参加を基本とします。 参加希望校が定数を超えた場合は、応募書類、県のバランス、 新規希望校の優先等を考慮して選考します。
- 最少開催人数:20名

留意事項

- 昼食および夕食代は各自でご負担ください。 なお、1日目の「国際交流パーティ」会費として、おひとり 1.000円を徴収します。
- ●学校所在地からJICA九州までの往復交通費、宿泊費はJICA カ州が負担します。
- む車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- ●プログラムへの参加にあたり、JICA九州負担にて参加者全員、 国内旅行傷害保険にご加入いただきます 万一事故が生じた場合、保険の給付範囲内で補償いたします。
- ●宿泊はJICA九州宿泊棟となります。
- 動きやすい衣服での参加をお願いします。
- ●個人都合(部活等)によるキャンセルはご遠慮くだい。
- ジャージ、運動靴、筆記用具、健康保険証の写し、および緊急時 の連絡先をご持参ください。

応募方法

参加申込書をJICA九州ホームベージよりダウンロードし、必要事項をご記入の上、 以下の送付先まで郵送ください。(URL:www.jica.go.jp/kyushu)

送付先

〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館3階 C号室 (特活)九州海外協力協会

応募締切

2016年6月8日(水)「必着」▶6月22日(水)頃 結果通知

昨年度参加校実績

福 岡 県 福岡県立八幡高等学校 福岡海星女子学院高等学校

明治学園高等学校 福岡県立香椎高等学校 福岡工業大学附属 城東高等学校 福岡雙葉高等学校

佐賀県立佐賀農業高等学校 佐賀県

長崎県立大村高等学校 熊本県立宇土高等学校 熊本県立熊本農業高等学校 熊本県立済々黌高等学校 熊本

大分県立臼杵高等学校

宮崎県立宮崎西高等学校 宮崎県立宮崎北高等学校 宮崎県立飯野高等学校

鹿児島県立錦江湾高等学校 鹿児島県立川辺高等学校 鹿児島純心女子高等学校 鹿児島県 鹿児島県立志布志高等学校





応募に関する問合せ先 (特活)九州海外協力協会 TEL092-415-6536

印

JICA 九州高校生国際協力実体験プログラム参加申込書

参加希望日程 第1回 7/27~7/			第1回 7/27~7/29		第2	2回 8/3~8/5				
ふり	がな									
高等	学校名	<u> </u>				高等	高等学校			
学校住所		₹ TEL		FA	X					
	ふりがな				40.07		lul.	ш		
引	氏名				担当教科		性別	男女		
率教		干								
師	現住所	TEL			FAX					
		E-Mail			携帯					
	ふりがな		<u> </u>		TEL					
生	氏名				学年	年生 性別	具	J/女		
生徒1	現住所	Ŧ				1				
	ふりがな				TEL					
生	氏名				学年	年生 性別	具	J/女		
生徒2	現住所	₸								
	ふりがな				TEL					
生徒3	氏名				学年	年生 性別	具	」/女		
3	現住所	₸								
	ふりがな				TEL					
生徒4	氏名				学年	年生 性別	具	!/女		
1/E 4	現住所	Ŧ								
ЛС	交所在地が A 九州まで 郵経路		スを使用される場合は、運賃と会 女→	社名をご	記入くださ		CA ナ	L#N		
	斯巴哈 公共交通機関	 た <i>~</i> 知田.					/	<u>-</u>		
×1			、/こで、 Mの「高校生国際協力実体験プ	ログラム」	に参加す	けることを承認し	きす。			
高等	学校名				日時	2016年 月	l E	ì		

【個人情報の取り扱いについて】

学校長

参加のお申し込みについて入手しました個人情報は、本プログラム実施に係る業務のみに使用いたします。また、当該情報は当機構にて 厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

送付先: 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-10-34 Mビル3号館3階C号室 (特活)九州海外協力協会

参加申込書

独立行政法人	国	祭協力	機構
九州国際ヤンな	7—	前長	歐

独立行政法人国際協力機構 九州国際センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。なお、旅費については下記の口座にお振込願います。

年 月 日

氏	名:					
生年月	月日:	年	月	目	年齢:	歳

振込口座

銀行名	支店名
口座番号	普通●当座
ふりがな	
名義人	

*次の質問にお答えください。スペースが足りない場合は別紙に記載してください。

(1)本プログラムへの参加動機を教えてください。
(2)これまでの国際理解教育/開発教育に関する取り組み実績(個人の取り組み)/学校全体
での取り組みがあれば記載してください。
(a) _ 2 _ 2 2 m
(3)プログラムに参加された後、どのような取り組みを検討されているか記載してください。

参加申込書

独立行政法人 国際協力 九州国際センター 所長							
独立行政法人国際協力 プログラム」の募集要項の ます。							
					年	月	目
申込者氏名	:						_
生年月日 親権者または 保護者名	:	年	月	且	年齢:		歳
本人との続柄	:						
【参加にあたり	心配事があ	ある方はご記	込ください	八健康	面、アレル	デー等	新
				※ 選考(こは影響を	っりませ	たん

参加生徒の皆さんへ

*3つの質問に一緒に参加するグループでお答えください。

(1)あなたがプログラムへ参加しようと思ったきっかけを自由に書いてください。		
(2)あなたの知っている開発途上国や国際協力のこと、もしくはあなた自身が関わっている活動などがあればその活動について、自由に書いてください。		
(3)あなたがこのプログラムに期待することを自由に書いて下さい。		
申込者氏名:		
I WHATH,		

2016 年度 第 1 回目 JICA 国際協力実体験プログラムアンケート

(1)

1日目(生徒用)

[自己紹介・アイスブレイキング]

□ 満足度

無回答

	(人)
満足	19
やや満足	12
やや不満	1
不 満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 相手に伝わるように大きな声を発することで、一気に緊張がほぐれ、楽しい気持ちで 活動に取り組めた。
- ・ とても緊張しました。1分を過ぎると打ち切られてしまったので悔しく心残りです。
- ・ アイスブレイキングにはとても満足しているが、学校紹介では原稿を準備していなく て他校に圧倒されたのが少し納得がいかなかった。もっとうまくしたかった。
- ・ 模造紙の大きさの割に1分間の発表は短かった。もっと色々発表したかった。

「クバーラ]

□ 満足度

 (人)

 満足
 31

 やや満足
 2

 やや不満
 0

 不満
 0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ マダガスカルで行われていると聞いて、走り回ればいいのかと思っていたけど、頭を 使うことに驚いた。
- · アフリカのイメージが大きく変わった。
- ・ マダガスカルも大して日本と変わらないと思いました。世界の人々・国と対等に考え、 お互いに助け合う気持ちを持つように心がけます。
- ・みんなで作戦を立てたり、応援したりして、チームワークが一気に深まった。

[フォトランゲージ「地球の食卓」・国際交流パーティ]

□ 満足度

(人)

満足	27
やや満足	5
やや不満	1
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ フォトランゲージはなかなかの難問でしたが、班の人と案をたくさん出していくので コミュニケーションをたくさん取ることができました。
- ・ フォトランゲージでは、国名を当てることに苦戦したが、全員が自分の意見を言えた し、お互いの意見を尊重できた。
- ・ 国際交流パーティでは研修員とうまく話せるか不安だったけれど、大事なことは話そ うとする姿勢や意欲であると、前向きに考えることができた。
- ・ たくさん研修員と話したかったけど、いつも高校で勉強している英語と違ったので、 聞き取ることが難しかった。もっと英語を頑張らなければいけないと痛感した。

□ 今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったこと・明日のプログラムに期待することなど、1日目を振り返って自由に書いて下さい。

- ・ グループの皆とこんなにも早く仲良くなれると思っていなかったので正直驚きました。
- ・ 1人の研修員の方としかお話しできなかったので、他の方とも話してみたかったです。 明日、あさって、お会いしたらまたお話ししてみたいと思いました。
- ・ このプログラムで外国のことが好きになりそうです。また、自分と同じで海外のこと に興味がある友達ができたので、自分に良い刺激になりそうです。

2日目(生徒用)

[アイスブレイキング「ナマステ体操」]

□満足度

(人)

満足	27
やや満足	9
やや不満	0
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- 朝にリフレッシュできてすごくいいなと思いました。
- ・ 日本のものとはまったく違って楽しかったです。難しかったけどいい経験ができました。

・ 難しかったけれど、みんなで「難しい、難しい」と言いながら挑戦するのもいいなと 思いました。

「国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」]

□ 満足度

(人)

満足	30
やや満足	3
やや不満	0
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 自分が考えていたこととはまったく違うような世界の状況を知って驚いた。
- ・ 日本の人口・世界の地域における富の格差の問題は自分が思っていた以上に深刻であることが分かりました。そして私が限られたもっとも裕福な国で恵まれて育っていることをひしひしと感じました。
- ・ 今日のことを考えるだけでなく、将来のことも考えて問題解決しなければいけないと 思いました。
- ・ 口では「平等に」と良く言うけど、それは難しいことなんだと知りました。
- ・「2対8」の話が忘れられません。

[青年海外協力隊体験談]

□ 満足度

(人)

満足	27
やや満足	9
やや不満	0
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- · 情けは人のためならずという言葉が印象的です。
- ・ 国や地域が違うと、自分の常識も相手からしたら常識ではないんだなと思いました。
- ・ 水汲みをしている子どもはかわいそうという印象が強かったんですが、現地の人は 笑っていたから、幸せの考え方は地域や人々によって違うんだと思いました。
- ・ 写真を見ていてとてもわくわくしました。自分も外国や知らない土地に行って、世界 から自分と自分の国を見て発見をたくさんしたいです。

「青年海外協力隊活動計画作り]

□ 満足度

(人)

	()()
満足	26
やや満足	6
やや不満	1
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 自分たちが青年海外協力隊になったらとても悩むだろうなと思いました。4人のグループだったからたくさん意見が出たけど、もし自分ひとりだけだったらできないことだなと思いました。
- ・ 限られた環境の中で問題の解決策を出すのは難しかった。バリボ村の劇はとても面白かったが、衝撃的な村の現状が浮き彫りになっており驚いた。
- ・ 班の人たちと問題点や改善点を考えていくうちに、本当に派遣されているくらい真剣 に考えている自分がいました。すごく熱中してました。
- ・ もっとしっかり練り上げて発表がしたいので、1時間はつらい。
- □ 今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったこと・明日のプログラムに期待することなど、2日目を振り返って自由に書いて下さい。
 - · 今日一日もとても濃い内容だったので、明日も濃い内容にできるように頑張りたい。
 - ・ 青年海外協力隊の話を聞けたことで、青年海外協力隊に興味が出てきました。技術や 資格がなくてもできるということは初めて知りました。もっと青年海外協力隊につい て知りたいです。
 - ・ 相手の意見を聞き、尊重し、自分の意見もしっかり聞いてもらうという、チームワークを感じることが多かった。明日は発表なので、自分たちの集大成として、村人にしっかり聞いてもらえるよう、工夫して発表する。
 - ・ もっと世界に目を向けて、視野を広げていきたいです。

3日目(生徒用)

[青年海外協力隊活動計画発表]

□ 満足度

(人)

満足	30
やや満足	3
やや不満	0
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 自分の計画に自信を持ってプレゼンできたので良かったと思います。なるほど!と感動した計画もたくさんあってとても学びになりました。
- ・ 短い時間でたくさんの問題を1つや2つに絞るのがとても難しかったです。今回は実体験プログラムだったけど実際に自分が発展途上国へ行って問題を解決するとなったらもっと大変なんだろうなぁと思いました。

□ 3 日間を通して、このプログラム全体の満足度は パーセント (%)

(人)

100%以上	25
90-99%	3
80-89%	4
79%以下	1

満足度の理由

【100%以上】

- ・ 自分が今まで知らなかったことを学ぶことができたし、改めて考え直させられたので 参加して良かったと思いました。(100%)
- · 新たな発見ができたり、友達ができたりして幸せです。(100%)
- ・ 世界にものすごく興味を持てました。(100%)

[90-99%]

・ 世界規模の問題を真剣に考え、班員と協力して解決策を出すことができました。(90%)

[80-89%]

・ プレゼンテーションをもう少し工夫して、もっと良いものを作り上げたかったです。 (82%)

□ 一番印象に残ったプログラムは何ですか。その理由を記入してください。

(人)

青年海外協力隊活動計画発表	7
青年海外協力隊活動計画作り	6
国際交流パーティ	6
クバーラ	6
国際理解ワークショップ(100人村)	5
青年海外協力隊体験談	1
全て	2

[青年海外協力隊活動計画発表]

・ 班それぞれにテーマは違ったけれど、みんな深く真剣に考えていてすごく印象に残っ た。その国に行くには英語だけ話せるだけではだめなんだなあと思った。

[青年海外協力隊活動計画作り]

· 自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちも考えることが重要だと思った。

[国際交流パーティ]

・研修員に将来の夢を応援されたのがとてもうれしかったです。

[クバーラ]

・ ルールはシンプルだったけれど、いざ自分が実際にやってみるととても難しかったで す。ただ見るのではなく、自分で「やってみる」ということが大事だと思いました。

[国際理解ワークショップ(100人村)]

・世界のことをこんなに楽しく知れたことが良かった。全国の人に聞いてもらいたい。

□ 最後に何か書きたいこと、伝えたいことなどがあれば自由に書いて下さい。

- ・ 見た目やテレビのニュースなどで知ったことを全てと思わずに、事実をしっかり知 ること、自分と関係ないという考えをなくすことなどが大事だと思った。
- ・ 3日間があっという間に過ぎていった。だけど1日1日が濃かったので、3日前がとても昔のことのように感じる。
- ・ 自分の開発途上国への考え方を大きく変えることができました。

2016 年度 第2回目 JICA 国際協力実体験プログラムアンケート

1日目(生徒用)

[自己紹介・アイスブレイキング]

□ 満足度

 (人)

 満足
 22

 やや満足
 15

 やや不満
 1

 不満
 0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 学校紹介を1分間でするのは難しい。でも1分だから、その時間を大切にちゃんと聞けたのかもしれない。
- ・ 大声を出したりするのは恥ずかしいと思って苦手だったけど、他の人が積極的なので、 私もつられて声を出せた。声を出して少し緊張がほぐれた。

[クバーラ]

□ 満足度

 (人)

 満足
 33

 やや満足
 4

 やや不満
 1

 不満
 0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ アフリカのスポーツだと聞いたときは、脚力を使うのかと思ったが、作戦が大事だと いうところが面白いなと思った。
- ・ 子どもの遊びを通してその国の情報や環境を知れました。マダガスカルのことについては本当に偏った知識しかなくて、自分の持っているイメージではだめだということが分かりました。

[フォトランゲージ「地球の食卓」・国際交流パーティ]

□ 満足度

 (人)

 満足
 27

 やや満足
 9

 やや不満
 2

 不満
 0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 言いたいことがお互いあまり伝わらなかったりしたけど、最終的には伝わったので、 「言葉で通じる」瞬間を感じることができました。
- ・ 私のグループの研修員の方が来られなかったけれど、現地ではよくあることだと聞い て驚きました。

□ 今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったこと・明日のプログラムに期待することなど、1日目を振り返って自由に書いて下さい。

- ・ 自分の英語力のなさに驚きました。理解したり書いたりするのはできるけど、それを 言葉にして相手に伝わるように話すことができなくてすごく残念でした。
- ・ このプログラムは自分の住んでいる県以外の高校の人たちと触れ合うので、その県と の違いとか方言の違いも結構あった。九州の中だけでもそのくらい違いがあるのだか ら、外国にはもっと知らないことがたくさんあると思うのでもっと外国について知り たい、学びたいと思った。

2日目(生徒用)

[アイスブレイキング「ナマステ体操」]

□ 満足度

 (人)

 満足
 28

 やや満足
 9

 やや不満
 1

 不満
 0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- · 他国の文化に運動という形で触れられて良かった。
- ・ 動きが激しかったのでもう少し広い部屋でやってほしかった。

[国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」]

□満足度

 (人)

 満足
 38

 やや満足
 0

 やや不満
 0

 不満
 0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ 50年前から人口は倍になっていて、将来人の住む場所があるのだろうか? また、食料は足りるのだろうか?

- ・ 世界の富をお茶で表したのがとても分かりやすく、自分が思った以上に貧富の差が あって驚いた。
- ・ 私のチームはお茶が少なくて寂しかったけれど実際寂しいなんて言ってられないと思いました。普段貧富の差があることを知っていても、改めて体験したり学ぶと放っておけることではないと思いました。

[青年海外協力隊体験談]

□満足度

(人)

	(
満足	34
やや満足	4
やや不満	0
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 海外でこんなことをしたっていう内容より、こんなことを感じたっていうことを聞けて良かった。本当にいろんなことを考えたし、海外での日本との感覚の違いに改めて気づかされたし、考えさせられた。
- ・ マラリアで亡くなった男の子を見たという話がとても衝撃的で胸が詰まる思いでした が、看護師の対応を聞いて、文化の違いでこんなにも考え方が違うと分かりました。

「青年海外協力隊活動計画作り]

□ 満足度

(人)

満足	34
やや満足	ω
やや不満	1
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 自分たちが主体となって何ができるか、それがその国で本当に必要とされているのか どうかを考えることが難しかった。自分たちの自己満足にならないようにしなければ いけないと思った。
- · 考えれば考えるほど問題が発生して難しかった。
- □ 今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったこと・明日のプログラムに期待することなど、2日目を振り返って自由に書いて下さい。
 - ・ 今まで、国際協力には専門の知識や技術がないといけないと思っていたが、コミュニティ開発という分野で関われることを知り、将来青年海外協力隊になりたいと思いました。

・ たくさん考えて感じた1日だった。自分の意見を言えなかった部分も少しだけ克服 できた。

3日目(生徒用)

[青年海外協力隊活動計画発表]

□ 満足度

(人)

満足	34
やや満足	4
やや不満	0
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 班で考えていることや計画していることが違って、根本的なことは同じなのに、色ん な考え方に気付かされました。
- ・ 相手に語りかけていくことがプレゼンのコツだと思った。
- ・ グループ全員が自分の考えを持って意思をはっきり伝えることができた。

□3日間を通して、このプログラム全体の満足度は パーセント (%)

()

100%以上	23
90-99%	9
80-89%	5
79%以下	1

満足度の理由

【100%以上】

- ・ 自分が幸せだという考え方を持つのではなく、いろんな国のことを理解したいという 思いが強まった。(100%)
- ・ 自分は今まで国際協力に興味があり、知識はあると勝手に思っていたけど、知らない こと、驚くことがたくさんあり、自分の考え方を大きく変えてくれたから。(100%)

[90-99%]

- ・ 私が思う「思いやり」には少しの「きれいごと」が入っていることに気づき、言葉というものの深さを思い知りました。(95%)
- ・ 食生活や考え方などを知ることで、とても遠い存在だった海外の国が少し身近に感じられるものになった。(90%)

[80-89%]

・ 最終日になってやっと少し打ち解けられた。あともう少し期間が長いと、プログラムにも余裕が出るしいいなと思います。(80%)

□ 一番印象に残ったプログラムは何ですか。その理由を記入してください。

(人) *一部複数回答あり

国際理解ワークショップ(100人村)	11
国際交流パーティ	8
青年海外協力隊活動計画作り	7
青年海外協力隊体験談	6
クバーラ	4
ナマステ体操	3
青年海外協力隊活動計画発表	2

[国際理解ワークショップ(100人村)]

- · 世界の現状を変えるのは自分しかいないと思いました。
- ・ 世界から自身を見つめて、ちっぽけな存在だなと感じた。一人ひとり違って、個性が あるのが人間だ。だからこそ、尊重し合って生きていかなければならないと思った。

[国際交流パーティ]

- ・ 研修員とお話しして得たものが多かった。そして自分の課題点(英語力など)が見つかった。
- ・ 伝えたいことはあったのに英語で伝えることができなくて、こんなに苦しい思いをし たのは初めてです。

[青年海外協力隊活動計画作り]

・ 自分たちがやりたいと思ったことは場合によっては余計なお世話になりうることも分かり、本当の支援とは何かを考えることができた。

[青年海外協力隊体験談]

・ 海外と日本では文化の違いや価値観の違いがあることは頭では分かっていたが、実体 験を聞くと、やっぱり言葉で表現できないことがあるんだなと思った。

□ 最後に何か書きたいこと、伝えたいことなどがあれば自由に書いて下さい。

- ・ 100 人村の「富の分配」は自分がいかに幸せなのかを思い知らされてとても衝撃的でした。だから、学校の皆にも知ってもらいたいです。また、自分が「してあげる」という目線だったことが恥ずかしかったです。
- ・ このプログラムに参加して、自分の夢についての考え方を深めることができました。
- · 学校内のみならず、県内の高校生の意識をもっと高めるような活動をしたいです。
- ・ 私たちは先進国だ、と開発途上国を下に見ているかもしれないが、私たちが失い、 彼らがまだ持っているもの、そういうものがたくさんあるということを感じた3日 間だった。

2016 年度 第 1 回目 高校生国際協力実体験プログラム アンケート

1日目(教員用)

1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

[自己紹介・アイスブレイキング]

- ・ 生徒は期待と不安でとても緊張していましたが、事前の準備の甲斐あってうまく発表できたと思います。1分間で伝えたいことをまとめ、相手に分かりやすく伝えることの難しさをプレッシャーの中で体感できました。他校の発表もそれぞれ工夫があり個性溢れるもので印象深いものでした。
- ・ 1分間での学校紹介は少々無理して早く話す生徒が多かった。時間内に焦点部分を最大限に伝えることは大切だが、 $2\sim3$ 分あった方が余裕を持って学校紹介ができると思う。
- ・ エコー効果による音伝達の時差を考慮して、もう少しゆっくりお話しいただけるとありがたいと思いました。

[クバーラ]

- ・ 生徒もゲームを通してチームワークや戦略が目に見えて改善されていき、有意義な活動だったと思います。学校でもぜひ HR などでやってみたいと思いました。
- ・「楽しかった」「面白かった」で終わらずに、まとめの部分でアフリカへ思いをはせ、 自分たちの身近に感じるような締めとなり、良かったです。

[フォトランゲージ「地球の食卓」・国際交流パーティ]

- ・ 1つのグループに1人の研修員という形でしたが、アイスブレイキングのような活動 をして、それぞれの研修員と言葉を交わすチャンスがあってもいいかなと思いました。
- ・ 料理の説明がもう少しあったらいいなと思いました。
- ・ 全体の流れがスムーズで、考えて答えを出して、体験することができて、各人に印象 に残る活動だったと思います。英語で何とか頑張っている姿を見てとてもうれしく、 ほほえましく思いました。

[その他]

- ・ 本校の生徒はこのプログラムを通して「変わりたい」と思っているので、様々なキャラクターの生徒さんたちにもまれてとても良い機会になっていると思います。この機会に感謝!
- ・ 生徒たちが活発に意見交換し、主体的に活動できる面白いものばかりでした。

2日目(教員用)

[アイスブレイキング「ナマステ体操」]

・ ナマステ体操は朝からかなり体を使うものだったので、心と体がしっかり起きたと思う。

[国際理解ワークショップ「世界がもし 100人の村だったら」]

- ・ 私自身も以前「100人の村」を使って授業をしたことがありますが、読み物教材としての活用しかしていなかったので、今回のように活動を入れると生徒たちがより身近に、そして具体的に考えられると思い、勉強になります。
- ・ 自分が思っていたイメージがいかに思い込みであったかを知ることができました。これはアレンジして授業に是非取り入れたいと思いました。

[青年海外協力隊体験談]

- ・ 本校の生徒は出前授業に来ていただき、この話を伺ったことが今回の参加につながっています。実体験に基づくお話は説得力があります。
- ・ ワークシート (メモ) を用意する場合は、項目に該当する話をして欲しかったです。 いい話だと思いますので、ざっくりメモ欄と感想でいいのではないでしょうか。「ア イコ」のワークショップはもう少し時間を割いてもいいように思います。

[青年海外協力隊活動計画作り]

- ・ 考える機会が多くあっていい試みだと思います。"2年間で自分たちにできること"ということもあり、(大切ではありますが)水関連に活動計画が偏ってしまうのが少しもったいなく感じます。高校生の発想力が生きるヒント出しが何かあるといいなと思います。
- ・ 生徒への問題提示ではスライドでの説明に加え、寸劇を交えた説明でイメージが良く つかめたと思います。できること・できないことや求められていること・求められて いないことなど「現地の人々のために」という視点が大切であることを理解できたと 思います。

[その他]

・ 教員とスタッフとの打ち合わせ時間は話し足りないくらいあっという間でした。今後 の参考になるようなプログラムも紹介していただき、これからやってみたいことがた くさん増えました。

3日目(教員用)

1.3日間を通してこのプログラムの満足度は パーセント

	()()
100%以上	5
90-99%	3
80-89%	1
79%以下	0

理由:

- ・ 盛り沢山の内容で、生徒たちが充実した時間を過ごしていたようです。国際理解を難しく考えず、身近に感じられる活動が多く盛り込まれており、「今後こうしたい」という希望も出てきているようです。(100%)
- ・ 生徒たちの学びがとても多く、実りあるものだった。「偏見を捨てよう」「人に伝えた

い」という言葉が聞けたのがとても嬉しい。同時に自分に足りないもの、課題点も見え、これからさらに上を目指して成長してくれるのではないかと期待します。(100%)

・ 生徒にとっては全てが刺激的で、日常の高校生活では味わえない貴重な経験ができたと思います。研修員との交流やフォトランゲージなど、どのプログラムも新鮮で世界観が劇的に広がったと思います。青年海外協力隊活動計画では、他校の生徒と協力してそれぞれのグループが工夫を凝らした計画を立てることができたと思います。発表では、自分たちの思いを伝えることの難しさを体験できたことも良かったと思います。(95%)

2. 全体の流れ、時間配分は適切でしたか?

		1
U	╲)

とても良かった	3
良かった	6
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

理由:

【とても良かった】

・ 各活動のまとめをうまくしていただくと次につながるかと思います。授業が 50 分と いうことを考えると一つ一つが長いように思いましたが、生徒たちは思ったより集中 していました。

【良かった】

- ・ 静と動を適切に取り入れ、生徒たちが主体的に動けるよう、よく工夫されていたと思います。
- 体験談はもっと詳しく聞きたかったです。

3. 来年度の高校生国際協力実体験プログラムに向けて、改善点をご記入ください。

- ・最初にグループ分けをして自己紹介する際、「1. 名前 2.学校 3.好きな〇〇 4.な ぜこのプログラムに参加しようと思ったか」をシェアしたら良いのではと思います。 そして最後に、この3日間のプログラムで学んだことから、今後に活かしていくこと を一つ宣言するというのはどうでしょうか。
- ・ 可能であれば各県ごとの開催でより多くの学校の参加ができれば良いと思いました。 日数を短くしたり、プログラムを絞っても、裾野を広げるメリットは大きいと思いま す。

4. 今後、事後学習として取り組みたいこと、生徒たちと進めていきたいことを ご記入ください。

・ 知って、体験して、「行動する」というところまでつなげていきたい。「体験」の部分では、より多くの生徒に気付きを体験して欲しいと思います。授業でも機会を捉えて 国際理解について伝えていきたい。 ・ 朝礼での発表の場を確保し、スライドを見てもらいながら発表する準備を進めたい。

5. JICA の開発教育支援にどのような役割を期待しますか。

- ・ 国際理解・異文化理解についての情報提供や教育サポートをさらに積極的に行って欲しいと思います。このような活動はなかなか高校現場全体には伝わっていません。
- ・ 学生が興味を持つきっかけ(出前授業)を増やしていくことは必要だと思います。そのために、今回のプログラムに参加した生徒のアフターフォローのプログラムがあってもいいかなと思います。

2016 年度 第2回目 高校生国際協力実体験プログラム アンケート

1日目(教員用)

1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

[自己紹介・アイスブレイキング]

- ・ 緊張していた生徒も多い中、声を出す活動を通して少しリラックスできていた様子で 良かった。
- ・ 時間が許せば一つ一つのグループができた際にその中で簡単に自己紹介ができるとな お良かった。

[クバーラ]

- ・ 生徒たちが協力し、ゲームを楽しんでいる姿がとても印象的でした。最後の振り返りであったように、私自身「アフリカ」に勝手なイメージを持っていたことに気づかされました。とても知的なスポーツで勉強になりました。
- ・ 想像していた以上に良かったです。また、体験しただけではなく、そこから何を考え るべきか時間を作っていただいたので、その後の取り組みに対する意識が高まったと 思います。

[フォトランゲージ「地球の食卓」・国際交流パーティ]

- ・ 一枚の写真から様々な情報を得られることを共有する過程を通してチームに輪ができていく様子も見られて良かった。
- ・ パーティではあまり接点が多くはない国の方々との交流で、「国際」という言葉を様々な角度から考える機会になった。可能であれば、事前に研修員の国が分かれば、複数示して調べさせておくなどして、少しでも質問が深まったり、より良いものになるのではと思った。

[その他]

- ・ 英語は単なる(しかし大事な)コミュニケーションツールである(でしかない)事を 再確認した。
- ・ 本校の生徒はまだまだ周りの様子を伺っているようなところがあるが、学校・出身な どが違う方々から明日はたくさん刺激を受けて欲しいと思う。

2日目(教員用)

[アイスブレイキング「ナマステ体操」]

- ・・ナマステ体操は「日常生活でもしてみたい」と思うほど楽しめたし、良い準備運動 になりました。学校でもいつかチャレンジしてみたいです。
- ・外国や異文化の中で働いていくにはきっとこの体操中に感じているような「よく分からないけど周囲の状況から判断してやっていく」事が多いのだろうと思った。

[国際理解ワークショップ「世界がもし 100人の村だったら」]

- ・ 実際にグループに分かれたり、お茶を富と見立てる事で目に見える形でイメージができた。富める人が世界全体のことを客観的に捉えるようになり、問題を解決するように動き出さなければならないと思いました。
- ・「100人村」は英語版もあるので読ませつつ、40人クラスで当てはめて実践してみたい。 富の配分の不平等の現実には心が痛みました。この「気の毒・かわいそう」の次のス テップの方が大切ですね。

[青年海外協力隊体験談]

- ・「もし自分だったらどうするだろう」と考えながら話を聞くことができるワークシートなどの工夫が考えるきっかけになり良かったです。
- ・ 感動的な話だけではなく、現地が抱える課題と向き合うことの難しさについて改めて 考えさせられました。本当の国際協力についてもう一度じっくり考えてみます。
- ・ 気づかない形で日本が支えられている実態も知ることができ、この点も学級で使える ようにしたいと思いました。

[青年海外協力隊活動計画作り]

- ・ 設定内容が多いからこそ生徒たちは現状を必死に把握しようとし、対策を考えやすく なっていると思いました。
- ・ 色々やりたいと思うことはありましたが、それが本当に現地の人にとって必要な事なのか? 私たちがそれは不幸だと決め付けているだけなのではないかと考える場面もありましたが、死亡率の低下や富める国との間での不条理がなくなるために必要な教育を受けた人の育成などはその国の未来にとって大切なことだと信じてやるしかないと感じました。

[その他]

・ 引率教員の仕事内容が多く、生徒の様子があまり見れず残念でした。

3日目(教員用)

1.3日間を通してこのプログラムの満足度は パーセント

(人)

	(
100%以上	4
90-99%	1
80-89%	1
79%以下	2
記載なし	2

理由:

- 生徒が「来て良かったです」と言っていた事が全てです。(100%)
- ・ 国際協力や国際理解について様々なワークを通しながら生徒たちそして私たち教師が 考えられる大変有意義な機会になりました。決して正しい答えのない支援のあり方を 班活動で導き出す過程は今後の教育活動に活かせていけそうです。残り 10% は事後

で私がしっかり返せるよう取っておきます (90%)。

・ もっと参加者以外にも効果を発揮できるシステム作りが必要だと感じた。(80%)

2. 全体の流れ、時間配分は適切でしたか?

(人)

とても良かった	6
良かった	3
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
記載なし	1

理由:

【とても良かった】

· プログラム内の活動で満足し切ってしまうのではなく、少し物足りなさを覚えるくらいが次の自発的な行動につながると思います。

【良かった】

・ 2日目が17時に終わる事がもったいない。

3. 来年度の高校生国際協力実体験プログラムに向けて、改善点をご記入ください。

- ・ 応募数の多さ、機会の拡充等を考えると、夏休みにもう1~2回、冬休みや春休みに 1回ずつ、計3~4回の機会を検討いただけると草の根がさらに広がると思います。
- ・ ワークショップでの生徒に対する発問が時々生徒にうまく伝わっていなくて、生徒が 何と答えて良いか分からない場面があったように思えました。
- ・ 計画発表には JICA 職員の方も多く参加されていたので、実体験をベースにアドバイスや感想があっても良かった。
- ・ 過去に参加された学校が事後にどのような取り組みを実際にされたのか具体的に教えていただけると助かります。または、他の先生方と案を出し合う等の活動があれば学校での取り組みをより深く考えられたかなと思います。
- ・ グループ外の生徒同士がコミュニケーションを取れる場面がもう少し欲しかった。

4. 今後、事後学習として取り組みたいこと、生徒たちと進めていきたいことを ご記入ください。

- ・ 今回学んだ事を見やすい形でまとめ、全校生徒が目にするようなところに掲示し、文 化祭で発表します。
- ・ 学んだ事を日常生活に落とし込むための学習・声かけ(今回の学びで得た観点を日常でも思い返すため)

5. JICA の開発教育支援にどのような役割を期待しますか。

・ とてもすばらしい内容ですが、良さが普及しきれていない部分があるかなと感じますの で、学校と連携して広められたらと思います。

- ・ 教師の研修や情報交換会
- ・ 中学校では開発教育の学びの場が少ないため、中学生対象の実体験プログラム

